

第49回



iCRAFT JPN VIETNAM

iCRAFT JPN VIETNAM社は、2007年にベトナムでの創業を開始した後、2012年に神戸市中央区に本社を置くアイクラフトの子会社となり、社名をiCRAFT JPN VIETNAMに変更して現在に至っています。iCRAFT JPN VIETNAMはWEB制作やデータ処理を始め、コンサルティング業務、不動産業など幅広い事業を行っています。

今回はそんなiCRAFT JPN VIETNAMの西田社長にお話を伺ってきました。

●事業内容

IT、国内外の営業代行、営業支援、営業プロモーション、人材に関する支援、投資コンサルティング、管理コンサルティング、不動産仲介

●iCRAFT JPN VIETNAM Co.,LTD

1st Fl, Blue Star Building, 23 Ton Duc Thang St, Dist 1, HCMC

●日本本社

アイクラフト株式会社
神戸市中央区京町83番地
KDC神戸ビル13F



一進出の経緯についてお聞かせください。

弊社のその当時の親会社は、日本でIT事業を行っておりましたが、2007年にそれまで、中国の企業に委託していたデータ処理業務を自社で行えないかと考え、海外自社拠点の設立を検討するようになりました。

ちょうどその頃、弊社の社長は、自社の海外進出に強い意欲があり、アジア各国を視察していましたが、中でもベトナムに関しては、何度も現地にも足を運んだり、日本でベトナム人留学生と交流したりと特に強い関わりがありました。

そのような交流の中で、ベトナム人のITエンジニアと知り合う機会があり、意気投合した結果、そのベトナム人エンジニアを中心にベトナムに初の現地法人を設立するという事になり、その後は、トントンプラザに話が済み、2007年4月には、ホーチミン市に現地法人が設立できま

した。当初の事業内容は、ITソフトウェアの開発およびデータ処理業務だったのですが、設立当初は、なかなか事業が軌道に乗りませんでした。

データ処理業務は、日本での研修なども行い通りの業務をこなせる状態にはなったのですが、メインで考えていたソフトウェア開発が、まったく思うようにいかず苦戦の連続でした。ちょうどその頃、私自身は日本でコンサルティング会社に勤務していたのですが、社長からベトナム事業の相談を受けるようになり、最終的には、私が事業の立て直しを図るということで、ベトナムに赴任しました。

私が赴任してすぐに、ラッキーなことに大型のソフトウェア開発案件を受注し、さあこれからという形になったのですが、設立時から中心的な役割を果たしてきたITエンジニアが、全く協力してくれず、再度ITエンジニアを採用しなおすところから始めるなど大変な思いをしました。結局何とかプロジェクトは完成したものの、今回の件を発端にそのITエンジニアは、会社を去ることになり、IT事業の継続が困難な状態になりました。

そこで、本社社長と相談の上、新たに、海外進出支援、労務・人事コンサルティング、現地視察手配、不動産紹介などの事業ライセンスを

取得し、進出から1年半ほど後に、仕切りなおしのスタートとなりました。設立当初の事業内容から大きな変更となったため、当初は不安もありましたが、不動産仲介の看板を掲げると多くの問い合わせをいただけるようになり、更にはそれが、現地法人ライセンスの取得支援や、現地視察手配などの業務にも広がっていき、現在までつながってきています。

一業務内容についてお聞かせください。

最初にも申し上げましたように、設立当初は、ソフトウェア開発とデータ処理を行っていましたが、現在では、不動産仲介業、コンサルティング業を中心に業務を行っております。

不動産仲介業務では、単にオフィスや住居をご紹介するだけではなく、生活支援サポートというサービスも行っています。

これは、ベトナムに駐在する日本人が安心して生活できるように、住居に関わる様々な問題をワンストップで受け付けてサポートするサービスです。

また、不動産紹介から新規進出企業の方とも接点ができるようになり、進出時の現地法人や駐在事務所設立のサポート、労働許可証の取得サポートなども行うようになっています。

さらに、大手旅行代理店などと協力して、ベト



打ち合わせ



事務所

ナムの視察ツアーなどの手配も行っています。

一ベトナムで事業を行うにあたって苦労されたことなどありますか？

弊社では、現在ベトナムへ進出してくる企業様の相談窓口として、様々な支援をさせて頂いていますが、正確な情報を提供することの難しさを痛感しています。我々はプロフェッショナルとして、お客様の不安を取り除いていかなければいけない立場ですが、実際には法律自体が曖昧であったり、行政担当者によって説明が異なるといったことが頻繁にありますので、非常に苦労します。勿論、我々もお客様にとって最善の方法を導き出すために最大限の努力をしていますが、なかなか難しいのが正直なところです。

また、不動産事業の方で言いますと、最近ではベトナム人オーナーの所有するマンションを外国人向けに賃貸しているケースが増えているのですが、このようなマンションではオーナーの対応が悪いとすぐにトラブルになってしまいます。例えば借手はきちんと家賃と光熱費をオーナーに支払っているにも拘らず、大家が電気代の支払いを忘れて突然電気が止まってしまうということもあります。そういったトラブル発生時には、弊社がお客様の代わりにオーナーと交渉するのですが、まったく取り合ってもらえないといったこともあったりします。ベトナム人と日本人では考え方が違うことはわかりますが、我々は日系企業として日本品質のサービスをお客様に提供したいと考えていますので、オーナー側にそれを理解してもらうのに苦労しています。

一ベトナム人スタッフについてはどのように評価されますか？

弊社は、もともとソフトウェア開発とデータ処理業務を行う企業としてスタートしまして、その後、業務内容を大きく変更したわけですが、この時にもデータ処理業務を行うスタッフとして採用した社員たちが、当初の業務内容とはまったく違うにもかかわらず積極的に不動産紹介やコンサルティング業務に取り組んでくれたので、非常に助かりました。ベトナム人スタッフは、優

秀な人も多くですし、上手くやる気を引き出せば、想像以上の力を発揮してくれると思っています。

一方で、日本人とは随分違うなと思われたこともあります。以前、社内でこれからは毎朝社内の掃除をしてから業務を開始しようという提案をしたことがあるのですが、社員からは、掃除は自分たちの業務ではないのでやりませんとキッパリ言われてしまいました。

私たち日本人の感覚であれば、そのような発想は中々出てこないと思いますし、仮に思ったとしても上司にハッキリとそのように言える人は少ないと思うのですが、ベトナム人はきちんと主張するなど妙に感心しました。

この二つの事柄は矛盾しているようですが、実際には、本人のやる気を如何に上手く引き出させるかがポイントではないかと思っています。

一離職率はいかがでしょうか？

弊社の場合、立ち上げ当初にはITエンジニアと日本語のできるデータ処理スタッフを採用したのですが、ITエンジニアは、業務変更に伴いほとんどの人が退職してしまったのですが、データ処理のスタッフは、その後も残って新事業の中核となって働いてくれました。弊社の場合ですと、最長で6年半以上働いているスタッフもおりますし、それほど離職率は高くないかと思っています。

ただ、中には当然辞めていく人もいるのですが、そういった人たちも多くの場合が、弊社で働くことで日本人の仕事の習慣や考え方を身につけて、日本へ留学であったり、日本での就職が決まったの退職といった理由が多いので、いなくなって困るという気持ちと、ステップアップしてくれて嬉しいという複雑な気持ちです。

一社内の行事などはされていますか？

以前は、社員の誕生日会や社員旅行などを行っていたのですが、あまり効果がないように感じましたので、現在は社内行事としては特に何も行っていません。その代わりに、社員個人個人に対する評価を随時行いながら、手当という形ですぐに反映するようにしています。

例えば、営業スタッフであれば当然売上に対する営業手当を支給しますし、通訳をやってくれた人には通訳手当、社内業務を担当するスタッフには、会社への貢献手当といった形で、頑張ってくれた社員には、直接何らかの形で努力に対する見返りを提供するようにしています。

一今後の展開について教えてください。

ソフトウェア開発事業は、創業時にいったん頓挫してしまいましたが、弊社は本社がIT企業ですので、本社のバックアップを受けながら、ネットワークの構築・保守などを行うITインフラ関連事業を今後展開できないかと考えています。

その他には、今後ベトナム企業と日系企業の取引が益々増えていくことが予想されていますが、日系企業の中には取引先にISOの取得や、プライバシーマークの取得を義務付けているケースも多いですので、そういった認証取得に関するコンサルティング業務もできないかと考えています。

また将来的には、ハノイにも拠点を設けたいと考えています。我々の最終目標は、親会社の力に一切頼ることなく、現地での独立採算体制を確立することで、その為にも今後さらに様々な業務に挑戦していきたいと考えています。

一ありがとうございました。



アイクラフトスタッフ(オフィス入口)